

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名	パール・タンク	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.570	△RG	0.015	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

**テストボール：PURPLE TANK**

フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離  インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番

**比較対照ボール：DESERT TANK**

フレアーの幅  インチ

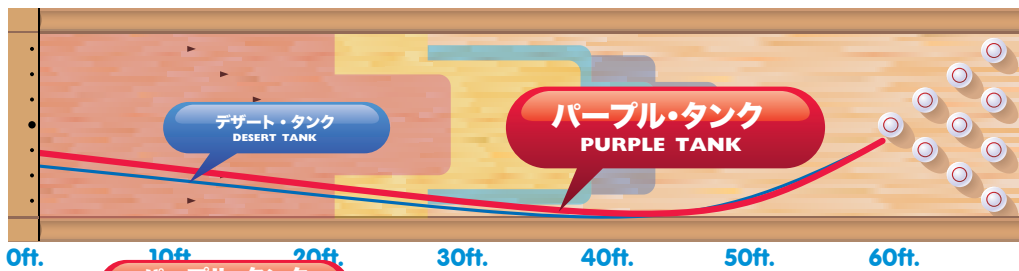
PAPからピンとの距離  インチ

表面加工

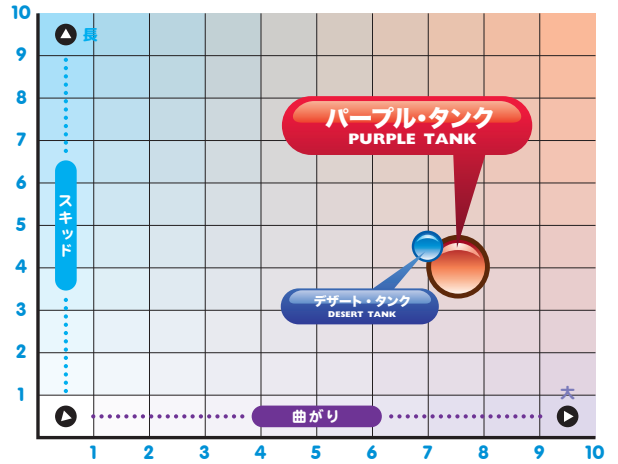
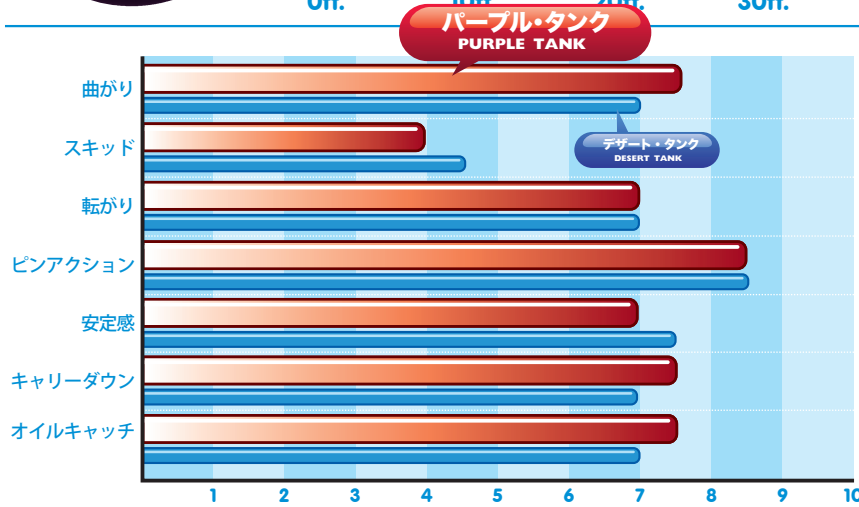
- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



### ボールの評価

前回発売されたDESERT TANKはMOTIV社で独自開発されたMicrocell Polymer素材にPearlを混入させ、ウレタン素材のパフォーマンスというよりはリアクティブ素材に近いリアクション特性を持ち、特にスポーツコンディションに向き合うボウラーに高い評価を頂きました。今回のPURPLE TANKはDESERT TANKと同じFlux Coreは変わりませんが、カバーストックがMicrocell Polymer素材からSolid Urethaneに変更になりました。

DESERT TANKを投げていつも感じるのですが、慣性が高く、低い△RGをもつFlux Coreでもこれだけのパフォーマンスが出るのかいつも感心させられます。そのイメージはPURPLE TANKとなっても変わることなく、むしろ動き自体が大きくなっているのにも驚きます。カバーとコアの強さやバランスを取ることで全体的なパフォーマンスは変化しますが、このPURPLE TANKはもの凄く計算されて作られているのが投球すると分かります。コアの数値が高くないのでフレア幅は細かく狭いのですが、ボールは中盤でキャッチしてピンヒットまでグイグイ曲がり続けます。本来ウレタン自体は従来のテクスチャー系カバーと比べるとキャッチが弱くキャリアに左右されやすいので、オイルと表面の部分を中心に新しい面にするためフレアを起こすことが必要となります。

そのためコアを強めにしてフレア幅を大きくします。しかしこのPURPLE TANKはコアの数値は低くとも常識を凌駕するほどのパフォーマンスを出すことができる。このようなボールの輩出こそが次世代のウレタン素材の在り方や方向性なのだと思います。Microcell Polymerの開発もさることながら、そのカバーを使いFlux Coreで絶品のDESERT TANKを作ったのも必然なら、このPURPLE TANKもしっかり計算されつくし圧巻のパフォーマンスを出しているのは脱帽としか表現できません。

### 特記事項

**ウレタン素材でパフォーマンスを求めたモデルがこのPURPLE TANK。ウレタンボールでも攻撃的に角度のある入射角が得られるボールです。**